

シャイン

— 受講のきっかけと今 —

シャイン 038号

「大人の安心」を基準に 若者を解釈してないか？

林 哲也さん

会社名：河合塾 コスモ事業部／明海大学 学生相談室カウンセラー

資格： 産業カウンセラー、国家資格キャリアコンサルタント



【受講のきっかけ】

2004年の受講でした。予備校の河合塾で、大学受験生の進路や生活のサポートを個人面談中心に行う中、塾専属のカウンセラーの方から産業カウンセラー養成講座を受けてみては？とのアドバイスを頂きました。そのお声かけは、知識習得やスキルアップのためというよりも「すごく楽しいよ！」という素朴なものだったと思います。

【資格取得後の活動状況】

養成講座でくり返し学んだ「傾聴」「受容」「共感」の理論は、その後、私の活動の軸となりました。相談者の「ありのまま」を受容する過程で、相談者自らがその時、その人なりの答えを見つけていく。当時の私にとっては、新鮮かつ衝撃的な経験だったと思います。

その後河合塾では、主に不登校、高校中退、ひきこもりなどの経験者が通う「コスモコース」という部門に移りました。コスモコースの生徒には、大学進学を希望し入塾をしたものの、自己肯定感の減退、不安感情、焦燥感、対人関係、無気力など生活上の課題を抱え、ひきこもり状態が膠着するケースも多く見られます。私たちスタッフは受験勉強以前に、彼らが「ありのまま」でいられる場づくりとして、スポーツ、ものづくり、おしゃべりカフェといったサークル・ゼミの運営も活用しながら、「生徒中心」のサポートを毎日模索しています。

彼らの葛藤に、傾聴、受容、共感を心がけつつ寄り添わんとする試行錯誤の経験は、私自身に対して加速度的に新たな気づきを促していきました。「彼らは長い間、深い悩みと共に併走してきた、逞しい“悩みのベテラン”なのだ」といった数多くの気づきは、私自身にそれまでの若者に対する理解を一掃し、再構築させることの必要を迫りました。こうした動機が強く働いたこともあり、保健系の大学院でストレスマネジメントを学び、そのご縁で、現在は大学の学生相談室にも関わらせて頂いています。

少子高齢社会を迎え、子どもや若者に対して、多くの大人の視線が注がれます。そうした中で私たちは「大人の安心」を基準に若者を解釈してないか、自省的に振り返り続ける必要があると感じています。「大人の安心」からはみ出た若者の姿に戸惑うばかりでなく、傾聴、受容、共感の心がけと好奇心をもって関係をつくることができたとき、大人には新たな気づきと学びが促され、若者には安心の空間が生まれる。若者に学び、そんなことを考えている日々です。

